

政治経済「市議会議員を招いた主権者教育」の授業報告

日時 2019年11月18日(月) 第5・6限

●授業の内容

民主主義社会の中で「選挙と議論」をテーマに「高校生議会」に関する課題をみんなで解く。

→名古屋市で高校生議会が開かれたら、

問1 議員には誰をどうやって選ぶか

問2 市長に何を要望するか

問3 実現に導くための具体的な質問内容を考えよ

※高校生議会とは、議員に選ばれた高校生が議論を重ね、共同して市長に政策を提案するための議会を指す。名古屋市ではまだ存在しない。

●授業のねらい

外部講師 5名(若手の現職の地方議員)を交え、「選挙と議論」について「高校生議会」を起点とした話し合いを通じ、主権者としての言動がよりとれるようになる。

※講師の方々には特定の主張にならないように留意していただき、政治的中立性を確保しました

●授業の感想例

- ・普段あまり関係がないと思っていた政治の世界が市議会議員のみなさんと議論することによって政治を身近に感じる事ができた。選挙も自分には関係ないと思っていたけど、投票に参加してみたいという意識が高まりました。
- ・議員の方と一緒に課題に取り組んだことで自分が提案したことを通すためのプロセスが大切で、自分の意志を強く持つことが大事だということを学んだ。若い人が選挙に行かないと何もはじまらないんだなと思った。楽しかった。



(↑2019年12月4日 毎日新聞)

(→2019年11月19日 中日新聞)

県内の若手市議5人
富田高で主権者授業
高校生議会を想定
県内の若手市議5人を招き、高校生の政治参加意識を育む主権者教育の授業が18日、名古屋市中川区の富田高校であった。三年生44人が市議と一緒に政治を考えた。

五人は、日進市議の大橋祐介さん(左)、刈谷市議の葛原祐季さん(左)、犬山市議の久世高裕さん(左)、稲沢市議の志智央さん(左)、小牧市議の諸岡英実さん(左)。

授業では、生徒に市議が交じり五グループに分かれた。一名古屋市で高校生議会が開かれることになったら、「1人1票」をどう使うか、増設などさまざま。生徒らは、「予算がないから無理」と一蹴されないように質問の戦略を練った。

授業を企画した野田真吾先生は、「生徒が政治を自分ごととして捉えるようになってもらうきっかけづくりの授業。町のこと、日本のことを自分で考える若者になってほしい」と話した。

SUSTAINABLE GOALS

4 質の高い教育をみんなに

11 住み続けられるまちづくりを

